

草津川跡地デザインガイドライン

■外観デザイン

(1) 草津の歴史や地形のよみとり（基本設計時）

- 草津川跡地整備について、全体のデザインの方向性として、草津街道の歴史性を踏まえた風景と草津川の堤体の形態をよみとり、本計画のガーデンミュージアムにふさわしい外観デザインとする。

■基本設計時の検討：歴史街道沿い建築物の家並みを現代的デザインに取り入れる



浮世絵に描かれた家並み



勾配屋根が折り重なる家並み風景のイメージ

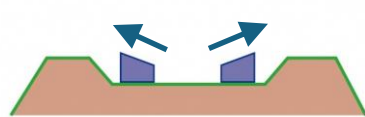


草津川の歴史性をにぎわい空間に取り入れる

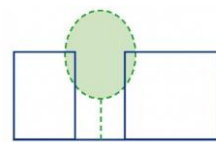
(2) 実施設計時における建築デザインの具現化

■カタチのデザイン→草津川の形態を活かす

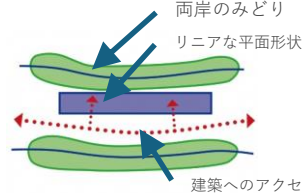
草津川の堤体の形状と
呼応する屋根形状



建築の隙間からみどりを見る



両岸のみどり
リニアな平面形状



建築へのアクセス

■屋根・外壁色



■内装のイメージ



■建築と緑が一体となったデザイン



- 草津街道の歴史を継承するために、現存する草津宿・本陣の「こげ茶」を基本色とする。
※本建築物の周囲には豊かな緑が存在するため、「こげ茶」は緑が映える色と考えます。
- 材料については機能や施工性を考慮して検討します。

- 構造形式を木造とし、「びわ湖材」の活用を試みる。また、木材の持つ柔らかさを感じることができる空間構成とする。

- 周囲の豊かなみどりを活かし、建築とみどりが一体となったデザインとする。
- ガーデンニングクラブなどのみどりの演出ができる配置計画とする。

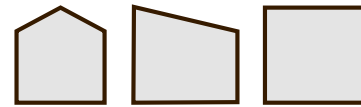
■草津らしさを表現するゆるやかなデザインコード

■形態

- 切妻や片流れ等の勾配屋根を基本とし、単独の陸屋根は不可とする。
- 屋上に設ける設備はできるだけ目立たない位置に設置する。

勾配屋根：○

陸屋根：×



■規模

- 建築物の最高高さは13m以下とすることが望ましい。
- 建築面積は、周囲の景観に配慮し、100㎡～200㎡を基準とする。規模が大きい場合は、立面を分節化する等の工夫をすることが望ましい。

■色彩

「草津市景観計画」の景観形成基準を基に、外観および屋根等の基調色は以下のマンセル表色系JIS Z 8721の値とする。

色相	彩度	明度
	上限値	下限値
0. 1R～10G	6以上	3以上
0. 1BG～10RP	3以下	3以上
無彩色	—	3以上

※屋根の基調色は彩度のみの適用

※企業のCI色は協議対象

■緑化

ガーデンミュージアムとしてふさわしい建築と緑が一体となった空間形成を目指す。



■整備済みの建築物等



例：複合遊具にはde愛ひろばに隣接していることから、歩道橋高欄の再生木材表層仕上げ（サンディング仕上げ・ダークカラー）同等程度の仕上げを含むことを想定している。